2026 年度

| 研究分野 | 授業科目名 | 科目責任者 |
|---|---|---|
| 形態系分野 | 呼吸器腫瘍学特論Ⅰ・Ⅲ | （清水 克彦） |

| 開講年次 | 共通／専攻／選択 | 単位数 | |
|---|---|---|---|
| 1,2,3,4 | 特論Ⅰ：必須専攻,<br>特論Ⅲ：選択 | 特論Ⅰ：4（2/年）,<br>特論Ⅲ：1/年 | |

## 目的

（1）医学の発展に貢献し得る研究課題を探索するために，呼吸器腫瘍学における最先端の専門的知識を修得する。
（2）研究成果を国民に還元するために，基礎研究の成果を臨床応用するための方法論を理解する。
（3）研究成果を具体的かつ簡潔に発表する能力を身につける。

## 授業到達目標

（1）呼吸器腫瘍学における専門的知識を述べることができる。
（2）標準的治療の根拠となるエビデンスを説明することができる。
（3）臨床研究の方法の長所短所について説明することができる。
（4）論文の内容について意見交換を行うことができる。

## 授業計画

| 回数 | 月日 | 曜日 | 時間 | 担当者 | 区分 1 | 区分 2 | 授業内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 毎週 | 火 | 17:00-17:30 | 清水 克彦 | 講義 | [抄読会] | 呼吸器外科学，呼吸器腫瘍学の英文論文を紹介し，その内容に関する討論を行う。<br>[場所:本館棟９階第１カンファレンス室] |
| 2 | 毎週 | 木 | 17:00-18:00 | 清水 克彦 | 講義 | [症例検討会] | 呼吸器外科症例検討会<br>[場所:本館棟９階第１カンファレンス室] |

## 評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

## 課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の要約について，追加訂正がある場合は，新たな課題論文を提示し解説を加える。

## 教科書

ISBN-9780323523578, IASLC Thoracic Oncology（2nd Edition）, Harvey I. Pass, et al., Elsevier, 2018
肺癌診療ガイドライン－胸膜中皮腫・胸腺腫瘍を含む－2025 年版、日本肺癌学会（編集）金原出版、2025【WEB 版のみ：https://www.haigan.gr.jp/publication/guideline/examination/2025/】

## 参考書

ISBN-9784524228157, 呼吸器外科テキスト : 外科専門医・呼吸器外科専門医をめざす人のために (改訂第 2 版), 日本呼吸器外科学会, 呼吸器外科専門医合同委員会編集, 南江堂, 2021

## 準備学習（予習・復習等）

（1）講義ごとに紹介する論文をあらかじめ熟読し，内容を理解しておく。(1 時間)
（2）教科書や参考書の関連する部分を予習しておく。(2 時間)
（3）紹介した論文の要約を作成し提出する。(1 時間)

## 修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

（1）呼吸器腫瘍学に関連する深い学識を修得する。
（2）エビデンスを創設するために必要な臨床試験の方法論・思考法を修得する。
（3）学術研究を実施するための高い倫理観を身につける。

## 注意事項・メッセージ

自ら課題を探求し，問題を解決するために必要な方法について，常に考える習慣を持つように心がけてください。